

優秀賞

高校生部門

兵庫県宝塚市

私立小林聖心女子学院高等学校1年

栗岡 希

語り継ぐ

「じいじは昔、自分ひとりで会社を立ち上げたんやで」私は、この「じいじ」の話を聞くのが好きだ。とても興味があり、思わず聞き入ってしまう。なぜここまで興味があるのかというと、きっと、私はその人に会ったことがないからだろう。祖父は、私が生まれるずっと前、両親が出会うずっと前に、すでに亡くなっている。

私の家族はとても仲がよく、いろいろな話をする。そして、父の妹や弟が集まると、必ず祖父の話をする。祖父は若くして亡くなったこともあり、きっと親戚も私と同様、祖父についてもっと知りたいのだと思う。なので、自分の知っている情報を出し合う。何度も聞いたことがある話もあり、自慢話もよく聞く。これにより、写真でしか見たことのなかった祖父の性格などが頭の中でイメージ化され、祖父を知ることができる。

つまり、私は祖父のことを父から語り継いでもらっている。語り継ぐことによって、ある人の記憶をずっと、ずっと先の何十年も後の人にまで残すことができる。

私は以前、広島に原爆が落とされたときの話を語り部から聞いた。今でも覚えているのは「ピカ、ドーン。これだけは忘れないで」と言ったときの語り部の目つきと表情と声の重さだ。あのとき、私を感じた胸の奥が縛られるような、なんともいえない痛み。あの言葉を聞くとともに、あの目と表情を見たからこそ感じられた苦しみだ。こうやって語り継ぐことによって、戦争は絶対にだめだとわかる。また、原爆の悲惨さも決して忘れてはならないと知ることができている。

話すことによって語り継がれる。話し手によって表情や感想、語り方が違う。なので、語り継ぐことによって得るものは大きいと思う。話すことにより、喜び、悲しみ、苦しみ、憎しみ、すべてを分かち合うことができる。これが言葉の力だと私は思う。